

## 平和な時間

豊見城市立豊崎小学校六年 宇都宮 琉愛

私は、大好きな家族がいます。父、母そして妹と弟です。ですが、そんな家族がいっしゅんで消えてしまったら、私はたえられないと思います。でも世界には、そんなことをいっしゅんで起こしてしまう戦争というものがあります。私の身近には、戦争に行った人はいません。だから、戦争についてもあまり知りません。でも、国と国どうしが武力で制圧し合っていることは知っています。そんなことをし合って、土地を手に入れても、どんな命にも変えられないと思います。そんなことをしたい人は、だれ一人としていないはずなのにその中にいる戦争にとりつかれたような人のせいで大勢の人が亡くなっています。

今は、日本で戦争はおきていませんが、もし日本が戦争を行うことになったらと思うと、とてもこわくなりました。

戦争を行う時代には、命を国にささげるということが正しかったそうです。ですが、今の私には、とてもですができません。私は今まで命の大切さを考えたことがなかったですし、戦争にふれることもなかなかありませんでした。戦争についても相手国が悪いと教えられていました。ですが、日本から戦争をしていたと本に書かれていました。

当時の教育は、人の殺し方や、自分の身を守ることも習ったそうです。一人一人の配給食も少ないので戦争中は、かえるや虫なんかを食べたそうです。こんなにも国のためにつくした人。できえ、相手国につかまり、なんのせんたくしもないに、殺されてしまいました。

こんなにもつらかった人が何万人といたというのに私は親の愛情をもらい、温かいふとんでねて、おいしい物を食べ、おこづかいさえももらって不自由なくくらしています。今も毎日のことだけを考えて、生きている人もいます。幸せな人より、毎日生きるのに必死な人の方が多いのかもしれないね。

戦争がなくなっってほしい人が人口のほぼだと思えます。だって、大切な人に消えてほしいなんて思う人はいないと思うからです。

ですが、やはり、一人でも戦争をしたいと思う人がいなくならないかぎり、なくならないと思います。それに、じゅうや戦車機だけでなく、人を守るための防空ごうできえも人が亡くなっているのです。防空ごうは、中はたみや土でできていて小さな家のような物です。小さな子どもが泣くと「しずかにさせろやあ」と言われ、殺されかける人もいたそうです。それでも、だれも一言もかけずにいたそうです。今ではとてもありえないことで心底怒りにふるえました。

なぜ普つうに殺せるのか考えつきませんでした。私は、そんな人がいるかぎり、戦争はなくならないと思います。

私は、本当の戦争を知りません。いくら聞いても、親が自分の子を殺すことや、人間の残こくさを知ったり、自分がよければ人のことは、どうでもいいということは何万人もの人が思っているということも、人が目の前で死んでしまう悲しみも自殺しようと考えた人がいることも何一つどうい気持ちでいるのかも分かりません。

私は、どういう気持ちで戦争を行っているのだろうというぎもんでいっばいです。なんで人を殺す必要があるんでしょうね。まだ、平和の大切さやとうとさのことも考え初めたばかりです。

この大切なことを忘れずに、大切にすることも平和への一歩だと思えます。今すんでいる日本でさえもずっとこの幸せが続くかなんて分かりません。ただ親を今よりずっと大切にしていきたいです。もちろん友達や家族もです。

どうか、「亡くなった人が天国で幸せにくらせていますように」と願わない日はありません。日本が安心してくらせるようになったら生まれ変わってやって来てくださいな。

私は、今の人生を大切に生きていきたいです。